

五郡 博志（豊後大野市三重町西泉）

【経営の概要】

経営形態	家族経営
モデルの種類	中山間地モデル
就農時期	昭和52年
労働力	基幹3名、補助1名

【経営規模(ha)】

	経営面積	水 稲	麦 類	大 豆	その他 (育苗)
			小麦		
平成19年	1.3	6	1.3	7	0.3
平成20年	1.3	5	1.3	8	0.3
平成21年	1.3	7	1.3	5	0.3

【機械装備】

汎用コンバイン80 ps	1台	溝あげ機	1台
トラクター50ps	1台	穀類乾燥機	8基
ブームスプレーヤ	1台		
マニユアスプレッタ	1台		
ライムソア	1台		

【経営の特徴】

米・麦・大豆を主軸とした土地利用型経営。農閑期の冬～春にかけては鉢花、野菜の育苗を取り入れ年間作業体系を確立している。基幹的労働力は本人、妻、長男の3名。農繁期には雇用を行う。麦・大豆の連作障害を避けるため、土壌改良資材（苦土石灰）の多投や堆肥散布を行うとともに、晴れ間を縫った播種作業や防除など、適期作業を重要視することで毎年収穫量は安定している。

【導入した新技術】

◎土壌分析に基づく土づくり資材の投入

（手法）

麦－大豆の連作を行う圃場が多いため、作付け前に土壌診断を行い診断結果に基づく土壌改良資材の投入（苦土石灰120kg程度）を行った。また、籾殻堆肥2t/10aを投入するとともに、3年に1回ケイカルを140kg/10aを散布した。

（結果）

大豆の反収は、H19：213kg（市内平均147kg）、H20：180kg（同左140kg）と、市内平均を大きく上回る収量で安定した。

また、麦はニシノカオリでは連作により「穂の白化現象」が散見されていたが、これら土作りの徹底により現在では減収等の被害は免れている。

<生育良好な大豆>

◎汎用コンバインによる収穫

(手法)

汎用コンバイン（水稻、麦、大豆）を活用し、1台で全ての品目を収穫することで収穫作業の省力化を図る。

(結果)

年間に3品目、延べ25haの稼働で効率良く作業を行うことができた。また汎用コンバインの機械の特徴を掴み、作業にも慣れることで大豆の収穫ロスが少なかった。このことも収穫量を上げる要因となっている。

<麦の収穫作業>

<大豆の搬出作業>

◎その他特徴的な取組

・機械の微調整（油圧調整、リール可動部の調整等）や運転操作の工夫（ゆっくり入る、Uターンは大きく等）により大豆の収穫ロスを減少させるとともに、土の噛み込みを抑えることで収量・品質の向上に努めている

・排水対策（額縁排水と明渠排水）は必ず実施する

・手を加え、肥料を加え無ければ収量は上がらないという基本的スタンスで栽培に取り組んでいる

◎主な波及活動

・県や市が主催する「大豆収穫研修会」や「儲ける水田農業研修会」に講師として参加し、自らが実践している水田農業経営のあり方や麦・大豆の栽培方法について情報提供を行った。また、実際に圃場でコンバインの操作方法を参加者に伝えるなど実践的な指導も行った。

・近隣の集落営農法人に対しては、汎用コンバインの操作方法について実演しながら教えるとともに、栽培については土作りの重要性を説いてきた。

<研修会会場にて>

【経営状況】

(10aあたり)

	労働時間（県平均比）	全算入生産費（県平均比）	所得
経営全体	9.6hr (61%)	80,200円(111%)	44,000円
水稻	25.0hr (78%)	—	
麦	4.4hr (48%)	—	
大豆	8.1hr (49%)	—	

(平成20年度データ)